

## 暴れるサケを捕まえて！ 熊石地域マリンビジョン協議会 サケの地引網体験学習

漁業者らでつくる熊石地域マリンビジョン協議会(工藤幸博会長)主催のサケの地引網体験が相沼内川河口で行われ、10月8日に雲石小学校の1～4年生26人が、16日には熊石高校の2～3年生9人と八雲高校総合ビジネス科の1年生9人が、地元漁業者の指導のもと、地引網体験を行いました。

児童や生徒たちは、暴れるサケを一生懸命捕まえたあと、チャンチャン焼きとイクラ丼に調理し、秋の味覚を楽しみました。



## 秋の色づき、紅葉を眺めて！ わんぱくの森ハイキング

10月13日に、熊石体育協会主催の「わんぱくの森ハイキング」が開催され、町民23人が参加しました。わんぱくの森は、自然歩道総距離約2.6キロ、所要時間約1時間45分の散策コースで、参加者は色づき始めた山ブドウやアキグミなどの果実を摘んだり、眼下に広がる日本海の景色を眺めながら、深まりゆく野山の散策を楽しみました。散策後はハイキングの出発地となった熊石歴史記念館で、ジンギスカン鍋を囲みながら、秋の一日を和やかに過ごしました。

## 津波から身を守るにはまず逃げる！ 熊石地域地震津波避難訓練

10月15日に熊石地域全域で大地震と大津波を想定した避難訓練が行われました。

今回の地震津波避難訓練の実施を前に、関内町内会(佐藤弘会長)では、9月20日に事前訓練を実施し、どうやって逃げるのか、避難完了まで何分かかるのかなどの検証を行いました。

また10月2日には、熊石総合支所で「津波を想定した防災研修会」(熊石町内会連絡協議会主催)が、八雲警察署の協力のもとで行われ、熊石地域の各町内会長ら15人が参加しました。研修会では、熊石地域の衛星写真を用いて災害図上訓練を行い、津波災害時の対応などについて話し合いました。

訓練当日は、午前10時の全国瞬時警報システム(「アラート」)による防災行政無線を合図に、机の下などに隠れて姿勢を低くし、頭や体を守る「シェイクアウト」訓練を行ったあと、住民530人が一斉に高台を目指しました。訓練では津波避難訓練のほか、負傷者の救急搬送訓練も行われ、参加者からは「実際に訓練して体験してみてもよかった」などの意見が寄せられました。

